vinetur

重慶ビール、2026年中間配当を1株当たり1.30元で据え置く案

総額629,162,557.40元の配当案を12月2日に株主投票へ。支払日は未定

2026年11月16日（月）



中国メディアが11月16日（月）、同社の発表を引用して報じたところによると、重慶ビールは2026年中間配当を総額629,162,557.40元で据え置く案を示した。税引き前の配当額は1株当たり1.30元となる。

この計画はまだ提案段階で、実施されておらず、支払日も決まっていない。同社は、12月2日の株主総会で承認を求めるとしている。

今回の配当案は、同社が2025年12月に実施した前回の中間配当と同額で、1株当たり1.30元となる。前回の中間配当からの増減は1株当たり0元、0%だ。

重慶ビールは中国有数の上場ビール会社であり、カールスバーグの中国事業を担う運営基盤でもあ

るため、今回の発表は注目される。消費者需要の動向が引き続き注視される中、投資家は企業が株主還元をどのように進めているかを示す指標として、配当決定を注意深く見守ることが多い。

一方、中間配当の据え置きだけでは、ビール消費や販売の回復を示すものではない。株主還元の継続を示すものであり、新たな事業動向を示唆するものではない。同社が以前公表した2026年1〜9月のビール販売量は2,532万9,000ヘクトリットルだったが、この数値はすでに明らかにされており、11月16日（月）の配当案に関連して新たに発表された統計ではない。

重慶ビールは重慶市に本社を置き、中国で上場している。同社の60％を支配するデンマークのビールメーカー、Carlsberg A/Sが、引き続き事業の主要な親会社だ。BarthHaasによると、カールスバーグは2025年の生産量が9,900万ヘクトリットルで、世界第4位のビール醸造グループだった。ただし、重慶ビールの事業規模は世界的な親会社より小さく、カールスバーグ・グループ全体ではなく、中国事業の基盤としての規模を示している。

今回の配当案は、中国の消費関連セクターをめぐり、事業実績、現金の確保、株主還元のバランスに投資家の関心が集まる中で示された。ビール会社については、販売量だけでなく、価格設定や商品構成、安定したキャッシュフローを生み出す力も評価されるため、配当の安定性が重要になることがある。

中国の金融メディアNational Business Dailyは11月16日（月）にこの提案を報じ、Securities Dailyも同日、Sinaが掲載した記事で正確な配当総額を伝えた。各報道によると、取締役会は株主への付議に向けて配当案を承認した。

12月2日の株主総会が開かれるまでは、配当案は承認待ちの状態だ。株主は、重慶ビールが2026年の中間配当として総額629,162,557.40元を支払うことを承認するか判断する。実施される場合の支払日程は、引き続き同社からの発表待ちとなる。